学校 × docomo

星稜中学校・高等学校
SEIRYO JUNIOR HIGH SCHOOL & SENIOR HIGH SCHOOL

石川県金沢市小坂町南206番地
URL：http://www.seiryo-hs.jp

野球やサッカーなど、部活動の多くが全国レベルを誇る星稜中学校・高等学校（石川県金沢市）。同校は「誠実にして社会に役立つ人間の育成」を建学の精神に掲げ、「知育・徳育・体育」のバランスを重んじた教育を実践している。

生徒・保護者・学校がつながる、新たなコミュニケーションのかたち

目的

- ☐ 社会に出てからも実用可能な力を育みたい
- ☐ 「学びの場」を学校外にも拡げたい
- ☐ 安心・安全な環境を用意したい

アプローチ

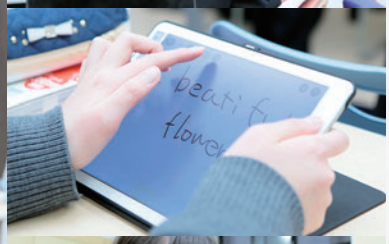
- ☑ 21世紀型スキル醸成のためのツールとしてタブレットを選定
- ☑ 利用場所を限定しないセルラーモデルを選定
- ☑ 同時接続に強く、セキュリティ性の高いドコモLTEネットワークを選定

生徒にとって“当たり前のツール”だからこそ学校で使う。

星稜中学校・高等学校は2017年度より、新中学1年生を対象に一人1台体制を実施した。中高生の利用がもはや当たり前になったタブレットを学校でも活用することで、将来必要なスキルの育成をめざす。学校、生徒、保護者の3者がつながるオープンな環境も築き、新たなコミュニケーションも生まれている。

積極的にICTを活用することで、生徒の可能性を伸ばす

同校では、2017年度より新中学1年生60名を対象にLTEタブレットの一人1台体制を本格実施した。今や、中高生による携帯電話やタブレットの利用が当たり前になる中で、同校では使わない選択肢を選ぶのではなく、積極的にICTを活用することで、生徒の可能性を伸ばし、教育内容のさらなる充実をめざす。星稜中学校・高等学校の鍋谷正二校長は、「今の生徒たちは将来、ICTスキルが必ず必要になります。だからこそ、学校でも活用できる環境を用意し、時代が求めるスキルの育成や、ICTを活用した多様な教育活動を実践していきたいと考えています」と語る。とはいえ、中学1年生が一人1台でタブレットを持つには心配もある。生徒たちはデジタルネイティブといわれ、対応力は高いものの、情報リテラシーはまだ発達段階だ。また生徒のICTスキルには個人差もあり、不慣れな生徒たちもあんしんして使える環境が必要である。「そうした心配もあったので、タブレット導入後もよいサポートをしてもらえるドコモを選びました」と鍋谷校長は語る。また同校では当初から、家庭学習にもタブレットを活用する方針を掲げていたため、Wi-Fi環境のない家庭を考慮して、通信安定性の高いドコモを選択したというのだ。



鍋谷正二校長

保護者に好評。学校と子供の成長を知る新たな機会に

生徒たちだけではなく、保護者も巻き込むかたちを意識

タブレットの本格導入から約1年が経過した星稜中学校・高等学校。同校でICT活用の陣頭指揮をとる中高一貫推進室長 濱野加代子教諭は「タブレットを導入してから、意外にも、生徒たちが授業支援ツールなどで作ったプレゼンや宿題を保護者の方が見てくださっていることがわかりました。それ以来、保護者の方も巻き込むようなかたちを意識し、保護者向けの情報発信に力を入れています」と語る。

学校の様子や生徒の成長を知ってもらう機会が増えた

たとえば、学校からの連絡も、以前は紙のプリントで配布していたが、タブレット導入後は、そのほとんどを授業支援ツールで行うようにした。また、宿題を毎日タブレットに配信することで、家庭での学習を気にかけてくれる保護者も増えたという。ほかにも、学級通信を毎日配信することで、生徒の様子が伝わるようにもしている。合唱コンクールの練習風景を動画で撮影し、保護者に送ったときは、“生徒たちの一生懸命な姿に感動した”とたいへん好評だったというのだ。従来であれば、多くの保護者は本番の様子しかわからず、それまでの経過を知る機会は少ない。濱野教諭は「今までに比べて、保護者の方に学校の様子や生徒の成長を知ってもらう機会が増えたことで、学校が何をしようとしているのか。学校への理解が深まったと感じています」と語る。タブレットのメリットを活かし、学校、生徒、保護者の3者がつながる環境を築くことで、新たなコミュニケーションに発展している。

プレゼンに協働学習、解説動画づくり、“話せる生徒”が増えた

濱野加代子教諭

タブレット導入後は、授業の内容も変わってきたと濱野教諭は語る。「新学習指導要領や高大接続改革に向けて、生徒たちには中学・高校で何を学んだのか、きちんと話せる力を身につけてほしいと考えています。そのため、タブレット導入後は、プレゼンで発表する場面や協働学習を多く取り入れるようにしています」と語る（濱野教諭）。

たとえば総合理科の授業では、グループでひとつのテーマに取り組み、実験の様子をタブレットのカメラで撮影し、写真や動画を活用したレポートにまとめた。映像を使って伝わりやすいレポートを作成することで、説得力のある発表につなげることができる。また英語では、過去形の練習として、学校行事の思い出を英作文にし、写真を添えてプレゼンにまとめた。ほかにも、テストの解説を教師が行うのではなく、生徒同士で解説動画を作って共有するなど、学んだことをアウトプットする機会を増やしている。濱野教諭は「発表する機会が増えたことで、人前で上手く話せる生徒が増えてきました。協働学習でも協力的な姿が見られ、生徒の成長を感じます」と手応えを語る。

今後の取り組みについては、「一人1台のメリットを最大限に活かすとともに、キャリア教育にも活用の幅を広げていきたい」と濱野教諭は抱負を語る。生徒一人ひとりの可能性をさらに伸ばし、より特色ある教育の実現をめざして。星稜中学校・高等学校の取り組みは続く。

お問い合わせ
株式会社NTTドコモ
ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター（0120-808-539）
受付時間　平日午前9時～午後6時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ドコモのホームページ　法人のお客さま
教育の場にICTを！
https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/

※本チラシの内容は2018年1月取材時点のものです。